

平成26年度第1回さぬき市社会教育委員の会 会議要旨（要約）

- 1 日 時 平成26年9月24日（水） 9：30～11：30
- 2 場 所 さぬき市津田支所 2階第5・6会議室
- 3 出席者 【委員】 廣瀬 強 山下隆章 寒川 巧 杉山道代
 三好成其 中川一美 福澤美香 山本正子
 石原新造 松木正美
 【事務局】 安藤正倫 中野敏記 頼富博幸 大垣理恵
- 欠席者 な し
- 傍聴者 0 名
- 4 議 題 議題1 社会教育委員の職務について
 議題2 さぬき市生涯学習基本計画の策定について
 議題3 その他
- 5 会議の内容は、次のとおりである。

発言者	意見概要
(事務局)	平成26年度第1回さぬき市社会教育委員の会を開催します。 さぬき市教育委員会安藤教育長が御挨拶を申し上げます。
(教育長)	(教育長あいさつ)
(事務局)	今回は、委員改選後初めての会議なので、自己紹介をお願いします。 (委員、事務局自己紹介)
(事務局)	本日の議題に入ります。 まず、「議題1 社会教育委員の職務について」です。これは、委員提案です。 担当から説明させます。 (説明)
(事務局)	社会教育委員として長年携わっている方がいるので、社会教育委員とはこういうものではないかについて、意見を紹介してください。
(委員)	私たちの仕事は社会教育法のとおりだが、教育委員会に対し助言できるよう、自ら行事に参加し、子ども等にいろいろなことを伝承したり、アイデアを出したりするのが社会教育委員の役割でないか、と自分なりに考えてやってきました。ボランティア活動や、交通安全に参加するなどその活動を広げていくのが役割かと思えます。社会教育法に「教育委員会の会に参加して意見を述べることができる」とあるが、今まで教育委員会の会に参加して助言したことはありません。今後は社会教育委員も教育委員会の会に参加するようになるのかと改めて思います。さぬき市の社会教育、教育委員会が充実し、より良い教育環境、安全な社会ができればと思います。
(委員)	私は3期目です。教育委員会への助言に関しては、今まで事後報告は受けてのみで、決定事項の報告を受ける会だと認識していました。本来はそうではないとのことなので、今後は、社会教育法にあるように進めていきたいと思えます。

(事務局)	過去には、教育委員会からスポーツ少年団の在り方に関する諮問を受け、答申したこともあります。本来は、さぬき市の社会教育の大元となる方向性を決めるような会なので、事務局としても、社会情勢の変化も激しい時代なので、積極的に相談したいと思います。
(委員)	ポイントを絞っていくということですね。
(事務局)	そうです。漠然とした案件ではなく、教育委員会として方向性を定めなければならないという具体的な案件の場合に、諮るようにしたいと思っています。
(委員)	教育委員の場合は、学校関係とかP T Aの関係の案件が多いと思います。社会教育委員は範囲が広いです。最近では、地域の行事に若い人が参加しにくい。子どものことは親任せ、学校任せにしたらいという考えがある。かつては、子どもを育てるのは近所や地域の人だという考えでした。そういった意味で社会教育委員の役割は大事です。このようなことを中心にやっていけばよいと思います。そうすれば、お年寄りも生き生きと活動でき、子どもたちは大切なことを受け継ぐことができることになります。
(委員)	1年生委員です。社会教育委員は何をするものかと思っていました。社会の人にも支援するし、学校の子どもにも支援するというのであれば、私たちがしてきた活動そのものであるのだなと思いました。
(事務局)	社会教育を地域で考えることが薄らいでいます。何を取り上げれば地域がもっと勉強する機会が生まれるだろうというものをこのような機会に議論するのが本来の社会教育委員の在り方でないかと思います。地域に行って社会教育委員がやりなさいというのではなく、情報を提供する。もっと地域の人に知らせることが社会教育の役割でないかなと思っています。
(委員)	3期目です。委員になるまでは社会教育という言葉もよく知らず、会に何度来ても社会教育委員の役割が漠然としています。市民にもっと社会教育という認識を持ってもらう、子どもから大人まで関われるものとして、知らない人が多いと思うのもっと社会教育というのを皆に広めていくことが必要ではないかと思います。
(委員)	学校が廃校になっているが、そのままにせず、資料館のように皆が訪れることができるようすればよいと思います。その学校の歴史、その地域の行事がわかるようなものを残しておくようにすればいいのではないかと考えます。
(教育長)	資料に、社会教育委員の会にはどのような職務がありますか、社会教育委員の活動はどのようなものがありますかという想定問答があります。それを読むと理解も深まるのではないかと思います。調査研究をし、結果を出し、さぬき市においてはこのようなものを指導してはどうか、導入してはどうかといったことを提案・提言するのも社会教育委員の役割でないかなと思っています。
(委員)	「計画を立案する、意見を言う」については可能だと思いますが、「調査研究する」については、全員とするのか、個々とするのか明確でない。また、ポイントを絞らないとできない。書いていることは非常にいいことだけれど、実行しようとすると非常に難しいと思います。

<p>(委員)</p>	<p>私は行政で長年社会教育に携わってきました。社会教育は、地域の方が楽しくこのさぬき市で生活できる、そういう体制をとること。まずそのためには地域住民の方が楽しみながら自分の趣味を活かす。要は文化活動、体育活動、芸術活動、自分のしたいことを自由にできる、そういう体制を整えるということが大切。さぬき市に住んで良かったと、毎日毎日が生きがいを持って生活できると感じてもらえるような体制をどう作っていくかということで、教育委員会に提言していく。行政との潤滑油を社会教育が担う。住民の方が満足していれば、うまくいく。行政を支える役目、さぬき市を良くしていくという方向性のもとで我々が頑張るのです。</p> <p>学校教育以外のことは全て社会教育です。何を学び、何を楽しみ、どのような文化を興していくかといった崇高な使命があります。ただ、我々が研究するのではなく、このような研究をするために研究機関を作ってはどうかと提言するのが仕事であって、そのための研究は必要であるが、全てにおいて社会教育委員が研究する、というような会ではないと思います。いかに多くの人力を借りて教育行政に手助けできるかを考えていくことが大切だと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>幼稚園の横には高齢者が集まれる場所を作ればよいと思います。廃校となった学校を潰すのではなく、趣味の学校として活用していけばいいと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>市の社会福祉協議会や老人クラブ連合会を活用する等、そういうことするためにはどうしたらいいかを提言していくものだと思います。ただ、今の社会は、老人クラブをはじめ様々な団体の加入率が減っています。このことについて、いかに魅力ある団体として改善していくかを考える必要があると思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>廃校施設について、公民館で様々な講座活動がありますが、教室をその団体に充てることができれば道具も置くことができ、時間の制約もなくいつでも行けます。また、昔遊びのような活動をいつでも子どもが経験できるという環境を作ってあげるのもひとつだと思います。</p> <p>ただ、耐震化されてなく廃校になったものがほとんどですが、予算はどうなっていますか。志度地区は公民館が老朽化しているので、公民館の役割を、廃校施設を活用して利用できるようなになればいいと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>教育委員会は、廃校施設の跡地利用について、研究しているのですか。</p>
<p>(教育長)</p>	<p>学校設置条例に掲げている間は教育財産として教育委員会の管轄です。閉校すると設置条例から削除します。普通財産となり教育委員会は管轄外になります。</p>
<p>(委員)</p>	<p>さぬき市の公民館は老朽化している。魅力ある公民館について考えてください。現在はただの貸館です。自ら汗を流して地域の公民館活動を伸ばしていこうという考えが希薄になっています。天王中学校跡地に、様々なことが学べるさぬき市の生涯学習大学校を作り、〇〇グループ、〇〇協議会といった団体に貸し、管理を任せられた者がより良いものを作り上げていく方法はどうですか。住民が主体的に関わり、自分たちで守っていく施設を検討することが大事です。スポーツもできる、文化活動もできるという建物を市民自らが守るという考え方を作り上げないとさぬき市の社会教育、公民館活動、生涯教育が下がっていくと思います。公民館運営審議会委員の方や公民館職員の方にぜひ考えていただきたいと思います。</p>

(教育長)	このようにすれば公民館の活性化につながるのではないかという観点で協議すれば、社会教育委員の会からの公民館に対する提言となります。こういうことも職務のひとつです。
(委員)	そのためには会議をもっと開催する必要があります。年に2回程度では無理です。
(委員)	神前小学校は耐震化が終わっています。土曜日に「放課後子ども教室」として、お茶とそろばんとパソコンを実施しています。それが社会教育の一環だと思います。
(委員)	社会教育委員が機会をとらえて地域行事に参加することで、地域と繋がって社会教育になっていくのではと思います。学校に地域行事への案内がありますが、生徒も部活動や大会の関係で忙しく、参加が困難なのが現状です。社会教育と学校教育、いろいろな人材を招き総合学習を行っていますが、それ以外での接点というのとはななくなっています。
(委員)	私の地元では、高校を卒業したら地元にはいません。子どもたちが大きくなったら地元に戻ってきたいと思えるような活動をしていかなければならないと思います。
(委員)	私が町の社会教育主事をしていた時に、とにかく社会教育は人が集まらないと話にならないと言われていました。人が集まるためには何をすればいいのか、魅力があり、住民の為になるような活動を考えて仕掛ける、というのが社会教育の担当として大切だと考え、実行していました。今は学校教育にいますが、学校でも地域と子どもたちの交流があまりなく、お年寄り子どもとを交流させたいという思いがありますが、地域がしたい内容と少しずれています。社会教育の願いと学校教育の考えとを調整するのが大事な役割ではないかと考えています。
(委員)	市全体がもっと教育の原点は家庭教育にあるということに主眼をおく必要があると思います。
(委員)	地域のコミュニティが段々弱くなっているというのを強く感じます。若者は関心がないというのがありますが、地域の人ややる人だけでやればよいという考えになってきています。
(委員)	地元で勧誘していけるような組織づくりが必要だと思います。 いま大事なのは自治会の活動です。自主防災組織を作るとしても基本は自治会なので、どうやって地域の方が集まって自治会に参加してもらえるのかですが、役員のなり手が無いという現状です。地域の和が薄くなってきているのは事実です。そこに何か起爆剤を入れて、さぬき市はこうやって地域の和を強めてきたというようなものを作らなければいけないと思います。
(委員)	社会教育振興計画は、正にそれがないと支えきれない気がします。
(事務局)	生涯学習課だけでは解決できない問題もいろいろありますが、社会教育の発展のために考えていきたいと思っておりますので今後ともよろしくお願いします。
(事務局)	議題2のさぬき市生涯学習基本計画の策定についてです。 本件は、昨年度からの継続案件です。担当から説明させます。

	(担当より説明)
(委員)	平成21年のアンケートの内容と今回の若干違うので、比較検討はできないようですね。
(事務局)	平成21年に調査した内容を踏まえて、昨年度にこの会で質問事項を検討し、作成したものです。調査対象者は、前は各公民館や社会体育施設の施設利用者でした。今回は18歳以上の市民を無作為抽出しました。本当の市民の意見を聞いているので、全く施設を利用していない方、自宅で趣味をしている方等も含まれています。施設についても前は社会体育施設や生涯学習施設のみの記載でしたが、今回は市内全部の施設を記載しました。生涯学習は、どの施設で行われているかわからないとの観点から、施設数が多岐にわたるものです。
(委員)	この結果を踏まえ、今回はどのような形で基本計画を作ろうとしていますか。
(事務局)	現在、総務部政策課で市の基本構想と総合計画を26年度中に作成します。これは市の根幹となる計画であり、これにリンクさせて生涯学習基本計画を作らなければならないのではということで、昨年この会で説明しました。ただ、その基本構想が策定された後にアンケート調査に基づいて計画を作る予定です。その際の参考となるのは調査の最後にあるご意見、ご要望ではないかと思っています。 生涯学習施設の配置については、アンケート調査結果では現状維持という希望がありますが、市としては、公共施設の在り方検討委員会を設置し、生涯学習施設も含めた施設をどう統合するかを検討している過渡期です。その検討過程を情報提供しながら策定作業を進めるつもりです。現時点で具体的なものは提示できませんが、前回の基本計画とはそれほど違うことはないと思います。
(委員)	骨子は全部事務局が作るのですか。
(事務局)	事務局が案を作り、それをもとに検討を進める予定です。
(事務局)	市の総合計画が上位計画であり、それが見直し中です。上位計画である市の総合計画がまだ確定していない状態で、下位である生涯学習基本計画が先に骨子を定めることはできないとの判断で、まずは結果が出ているアンケート調査について説明したものです。すぐに意見を出すのは難しいと思うので、持ち帰って検討していただければと思います。 今後、アンケート調査の結果に基づいて、生涯学習基本計画のそれぞれの目的や方針を事務局で考え、それをこの会で審議していく段取りになると思います。
(委員)	これは今年度中に作成しないといけないのですか。
(事務局)	今年度中に中身の調整を提案していきたいと思っています。冊子の完成までは考えていません。
(委員)	この冊子はどこに配るのですか。
(事務局)	市議会議員や各課、県内の市町教育委員会です。 併せて、ホームページで公表していきますので、誰でも見ることができます。
(委員)	単なるこんなアンケートを載せても誰も見ません。皆が読むような、見てもらえるようなものを作らないといけないので、このアンケート結果を冊子に載せる必要

	<p>はないと思います。</p>
(委 員)	<p>さぬき市の社会教育を生涯学習も含めて求めていくのであれば、社会教育団体の調査も必要ではないかと思います。魅力ある社会教育事業というのは、もっともっと掘り下げていったら出てくる問題です。どんな事業が各団体で行われているのか、関係団体への生涯学習に関する調査、社会教育団体のより充実のために調査することが重要であると思います。</p>
(事務局)	<p>社会教育団体へのアンケート調査は、内容の吟味も必要なことから、例えば計画期間の中間年など機会をとらえて実施できればと思います。</p>
(委 員)	<p>5年後の再計画の時に、そのようなアンケートも含めてという形で良いのではないですか。</p>
(事務局)	<p>5年後と言わず機会を捉えて中身を吟味し、実施したいと思います。次回の計画では、今回のアンケート調査と比較することも必要なので、社会教育団体への調査は別に対応する必要があると思います。意見を吸い上げる期間として2～3年後がよいのではないかと思います。</p>
(教育長)	<p>アンケート結果によると、回答数自体は少ないものの、趣味・娯楽の実施場所として大川公民館、みろく自然公園、志度音楽ホール、志度公民館、志度図書館、長尾公民館、各地区集会場等公共施設が選ばれています。やはり公民館は必要だと言えます。また、生涯学習の妨げになるのは何かについては、時間的余裕となっています。施設で重視しているのは何かについては、施設の場所とされ、遠い近いも重要ということがわかります。次が使用料の24%です。ところが、使用料は、利用者が負担したほうがよいとあり、若い人ほど負担しても良いと考えています。軽減措置で負担したほうがよい、無いほうが良いが下位という結果です。現在の社会背景でこのグラフから読み取れるのはこういうことであり、それを読み取り、この考えはこのデータからこのように言える、というようなことを表から分析していただければと思います。ABの表を比較するとこのようなことがわかる、というようにわかりやすくするために年代別、男女別にしていきます。</p> <p>また、参考として高松市、丸亀市、三豊市の生涯学習計画資料を添付しています。前回の計画と比較し、削除すべきもの、順番を変えるべきもの、新たに記載すべきものなどの意見をいただけたらと思います。</p>
(委 員)	<p>意見はいつ言えばいいですか。</p>
(事務局)	<p>随時受け付けています。次回の会議では、アンケート調査の中身を再考したいと思います。</p>
(事務局)	<p>議題3のその他について、事務局としての用件はありません。委員の皆様で何か意見等はありませんか。</p>
(委 員)	<p>(なし)</p>
(事務局)	<p>本日より予定していた議題は、全て終了しました。 これで平成26年度第1回さぬき市社会教育委員の会を閉会します。</p>
閉 会	